

余暇活動参加率は「国内観光旅行」が3年連続1位 「余暇重視派」が過去最高を更新 「レジャー白書 2025」(速報版)を公表

調査研究や提言、実践活動により生産性向上をめざす公益財団法人 日本生産性本部（東京都千代田区、理事長：前田和敬）の余暇創研は、7月15日、「レジャー白書 2025」(速報版)を公表しました。これは、今年10月に発行予定の「レジャー白書 2025」の取りまとめに向けて実施した2024年の余暇活動に関する個人の意識や参加実態に関するアンケート調査の結果を、速報版として公表するものです。本調査は、今年2月にインターネットを通じて実施し、全国の15～79歳の男女、3,467人から有効回答を得ました。本調査のポイントは以下の通りです。詳細は別紙をご参照ください。

●仕事より余暇を重視する「余暇重視派」が過去最高を更新（別紙 p.5）

- ・仕事（勉強や家事を含む）と余暇のどちらを重視するかを尋ねたところ、余暇重視派（「仕事よりも余暇の中に生きがいを求める」「仕事は要領よくかたづけて、できるだけ余暇を楽しむ」の合計）が67.8%と過去最高を更新。特に「仕事よりも余暇の中に生きがいを求める」割合が2021年以降増加しており、37.8%とこちらも過去最高を更新した。

●余暇活動参加率では、「国内観光旅行」が3年連続1位（別紙 p.7-8）

- ・余暇活動の参加率は「国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）」が、48.3%で3年連続の1位。前年（48.7%）から横ばいで推移。ただし、コロナ禍前の2019年（54.3%）より低い。
- ・2位は「動画鑑賞（レンタル、配信を含む）」（38.1%）で前年から1.1ポイント増。順位を1つ上げたが、1位となった2020年（39.4%）より低い。一方、前年2位の「外食（日常的なものは除く）」は3.6ポイント減少し3位。4位、5位はともに前年に引き続き「読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）」「音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FMなど）」となった。
- ・男女別でみると、男女ともに「国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）」が1位だが、参加率はいずれも前年よりわずかに低下。

●潜在需要では、「海外旅行」が前年に引き続き1位（別紙 p.10）

- ・各種目の希望率と参加率の差を「潜在需要」として算出したところ、1位が「海外旅行」、2位が「国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）」と、前年同様の結果となった。ただし、「海外旅行」は前年より3.9ポイント、「国内観光旅行」は前年より0.6ポイント減少。いずれも前年より希望率が低下したことにより潜在需要が低下。

●一人当たりの平均参加種目数は10.4種目から10.2種目に微減（別紙 p.11）

- ・一人当たりの平均参加種目数は10.2種目。コロナ禍の2020年（9.9種目）、2021年（9.7種目）、2022年（10.1種目）より微増したものの、前年2023年（10.4種目）からは微減。また、2019年（12.3種目）よりは低い。

本調査結果の内容は、今年10月発行予定の「レジャー白書 2025」にも掲載する予定です。

■別添：「レジャー白書 2025」(速報版) 詳細資料

「レジャー白書」サイト <https://www.jpc-net.jp/research/list/leisure.html>

本件に関するお問合せ先：公益財団法人日本生産性本部

<内容>余暇創研 長田 Tel：03-3511-4011/e-mail：yoka@jpc-net.jp

<取材>広報戦略室 伊藤、粕谷、鈴木(彩) Tel：03-5511-2029/e-mail：jpcpr@jpc-net.jp